



三到図書館 ニュース

2015年10月発行
No.77

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ
- ◇学生座談会
- ◇選書ツアー報告
- ◇読書運動プロジェクト
- ◇図書館からの報告
- ◇図書館からのお知らせ

📖 巻頭メッセージ

あとからジワッと効きますよ、本は

図書館長・リベラルアーツ学群教授 清水 竹人

今回は本の効用について、ホンの少し書いてみよう。本を手にとってページをめくる。そこには、実にたくさんの方が情報があり、先蹤者たちの知恵がぎっしりと詰まっていることに気づくはずだ。この一冊のために、書き手はどれだけの苦勞をしたのだろうか。調べ、推敲をかさね、ようやく文字にしたもの、それが本だ。

調べるためには、あちらこちら駆け回ったことだろう。ネット社会になっても、いちばん大切なことは現場にしかない。著者もまた、さらに先人たちの知識に頼ったはずだ。そのために、やはり本を読んだにちがいない。

本が売れない時代だという。出版社、書店、印刷所は減り、品切れや絶版になるサイクルが早くなった。本を作るコストが下がったわけではないし、ネット文化の拡大は、私たちから本を遠ざけつつあるように思われる。出版ビジネスは下降の一途だ。

売れ残りは出版社として困るから、あまりたくさんは刷れない。人気作家でもなければ、1,000刷りとか2,000刷りだという。1,000円の本なら、100万円から200万円のビジネスだ。著者には印税が入るのだが、5%と計算しても、せいぜい10万円。現地調査費や買い込んだ資料代にもならず、執筆は赤字経営と同義語化する。

そういうわけだから、私は自分で書くよりも、他人が書いてくれたものを読む方が好きだ。怠け者にとって、楽であることは何よりもありがたい。冗談はさておき、あらゆる分野において、自分が一から調べ、まとめあげることなど、これだけ高度に発達した文明社会では、万能の天才と謳われたレオナルドやミケランジェロであっても無理なことだ。だから本を読んで、その成果だけちゃっかり吸収してしまおうというわけである。

この10年、テロと対テロ戦争、米国の国際戦略、死刑制度、原子力発電や核事故、貧困社会、学校や教育の問題、沖縄、ホロコースト、従軍慰安婦（戦時性奴隷制）、強制連行、731部隊などの本を読んできた。年間100冊以上増えているらしく、いつの間にか書棚がいっぱいになっている。これらをすべてカバーする専門家などいないし、自分になれるはずも

ない。しかし本を読むことで、一般の人でも一定の体系立った知識を身につけることができる。だからこそ、本は専門家でない普通の人でも読んでわかるように書かれなければならない。

英国に滞在したときのこと。ある日、某巨大企業の役員の家で招かれた。彼は投資の専門家であったが、書齋に並んでいたのは、どれもビジネスには直接かかわらないであろう文学作品や芸術関係の本。彼曰く、これらを読んだ経験が自分の仕事に役立っているのだと。

経済もビジネスも人間理解することなしに成り立たない。読書は人間形成の底流をなし、幅広い知識と関心は他者とのコミュニケーションを円滑にする。ある知識を身につけたから教養人なのではなく、習得したものを自己の内部で醸成させ、有機的に結びつけることができる人物を教養ある人と呼ぶのである。どこかの国の教育行政官が人文不要論をいい出すのは、ものごとの本質を理解していない、すなわち無教養だからだ。

本棚を見れば、その人のことがわかるという。人柄、関心、教養を理解する貴重な手がかりになる。しかし読書は、なにも知識を身につけるといった実利だけが目的ではない。娯楽であり、癒しであり、ときには生きていくための勇気を与えてくれるものだ。

まずは好奇心を持とう。そして何か一冊、手にとってほしい。そんなときのために図書館はあるのだが、気に入った本は、やはり自分で買うことをすすめたい。いつでも自分の手元にあるということは、かぎりない安心感をもたらしてくれるものだから。

大学も、その図書館を見れば、その学校が何を目指しているか、教育方針、スピリッツがわかるにちがいない。今回は図書館について書いてみたいと思うが、はたしてその機会はあるだろうか。



学生たちの図書館利用について ～健康福祉学群 島津ゼミ学生と語る～



桜美林大学には芸術文化、健康福祉、ビジネスマネジメント、リベラルアーツと学問領域が異なる4つの学群があり、各学群の学生たちはそれぞれの学問領域に沿った学修、研究を行っています。学問領域が異なれば図書館の使い方も、またどのような資料（図書、雑誌、新聞、映像・音声資料等）を使うかとういことも異なってきます。今回は健康福祉学群の学生たちの大学図書館利用や図書館像についてお話を聞かせてもらいました。

健康福祉学群には社会福祉、精神保健福祉、健康科学、保育の4つの専修があります。今回は社会福祉専修の島津淳教授のゼミナールに所属する学生たちに、インタビューの時間を取っていただきました。まずは当日出席した島津ゼミの学生たちに図書館からいくつか質問を出して意見を述べてもらいました。



「あなたにとって大学図書館とはどんな場所ですか？」と尋ねたところ、学生たちからは「勉強する場所」「課題をこなす場所」「市立図書館よりも資料が豊富」「使うと便利でためになる場所」「インターネットだけでは分からないことを調べることができる」という答えが出されました。中には「ひとりになりたい時に行く場所」「図書館は不要(!)」という意見も聞かれました。学生たちは、図書館に対して悪いイメージはほとんど持っていないようです。



「新聞は読みますか？」という質問には、「読まない」「読む習慣がない」という意見がほとんどでした。読まない理由を尋ねたところ、「大きくて扱いにくい」「読み慣れない」「ごちゃごちゃして読みにくい」「ネットやテレビで十分なので新聞は不要」「購読していない」「自分には不要な記事が多すぎる」という意見が出されました。中には

「書いた人の意見が入っている。客観的ではないと思う」という意見もありました。



最後に**図書館への要望**を尋ねたところ、「机と椅子を良くしてほしい」「エレベーターがほしい」「もっと広くしてほしい」「PCの数を増やして」「タッチパネルで検索できるシステムがほしい」「貸出期間を延ばしてほしい」「印刷枚数制限を見直してほしい」「新しい本が少ないのでは？」等、学生たちの要望を直接聞くことができました。図書館ですぐ対応できるもの、解決できる問題にはどんどん取り組んでいきます。



島津淳教授とゼミ生の皆さん

今回参加してくれた島津ゼミの学生のうち、小岩千紗さん、寺内千尋さん、茂木龍太くんの3名に、後日詳しいインタビューをさせてもらいました。



小岩千紗さん



大学図書館は勉強が捗る場所です。課題に取り組む、期末試験勉強、パソコン利用、実習準備などに利用します。指定図書コーナーは教員ごとの分類なので分かりやすく便利です。また学内でひとりになりたい時、仕切りのある個人用閲覧席は、読書や勉強に集中できるので好

きです。3階の資格就職本コーナーに社会福祉関連本があるのは気がつかなかった。図書館利用説明を受けている人、受けていない人との差があるのかも。情報メディア室2階のグループ学習室の存在も知らなかった。ゼミの子も知らないと思います。私は週に1回は図書館を使うのに、知らないことが多いですね（苦笑）。サレンバークー館の実習支援センターには、資格の問題集やテキストがあるので、そこだけ利用して図書館まで来ない学生もいるのかもしれませんが。

今回お話を聞いて、多くのデータベース、オンライン百科事典、電子書籍が使えることを知りました。電子書籍をタブレットにダウンロードしてどこでも読めるなんてすごい。学費払って勉強しているのだから、使わないもったいないなって思いました。学生としては、図書館で貸し出すノートパソコンを館外に持ち出せたらもっと便利なんですけどね。SAC（セルフアクセスセンター）まで行くのは遠いし。図書館利用ガイダンスも1年生のときだと忘れてしまうから、課題に取り組む2年生の時にやるといいと思います。



寺内千尋さん

私はいつも大学図書館でテスト勉強します。夏は涼しいし冬は暖かいし、たまには疲れて誰とも話したくない時、ひとりで考える時間が欲しい時、そんな時こそ図書館ですね。私は入学後、情報メディア室に行ったことがあるんですけど、どうやって入ったらいいのかよくわからなくて、結局入らずに帰ったことがあります。なんだか利用の仕方が分からなくて、どうやっていいんだろうって考えて、よくわからなくて、使いたかったんですけど（苦笑）今にして思えば使い方を尋ねればよかったのですが、1年生の時はそこまで思い至らなかったです。電子ジャーナルやデータベースについても知らないことが多いと感じました。実習支援センターは私もよく使います。授業はサレンバークー館で主に行われるので、その流れで立ち寄ります。

茂木龍太さん



健康福祉学群では、全体の図書館利用のガイダンスはないのですが「社会福祉マネジメント」という授業で新聞記事をもとに意見をまとめる課題があります。新聞記事検索データベースの使い方はその先生が教えてくれました。

ビデオなどを観にメディア室にも行きます。個人的にはもう少し設備がよくなるといいなと思います。

また今日は図書館の方から、本学図書館には電子書籍もあるとお聞きしました。自分は電車でも本を読むんですけど、電子書籍があれば使おうと思います。

ぼくは、レポートやゼミでの発表に使う統計や調査資料は、例えば厚生労働省と大学の調査だけに絞るなど出典を気にします。気にしない人もいるんでしょうけど。

ぼくにとって大学の図書館は勉強のための場所です。図書館で好きな場所は個人用に仕切られている閲覧席です。その他、図書館にもう少しくつろげる椅子がほしい。図書館の本棚の間にひっそりと置いてある椅子がいいですね。その場で読むことができるし、もっとあちこちに椅子が置いてほしい。

本の陳列も書店みたいにできたら楽しいですね。1年生のとき、最初に目に入る図書が難しそうな研究書ばかりだったら、学生によっては堅苦しいイメージが先行してしまうかもしれません。もちろん勉強のための図書館ですが、小説なんかをもっとあってもいいと思います。



（構成：図書館メディアセンター課長 佐々木 俊介）

選書ツアー報告

第2回「学生選書ツアー」を開催しました

2015年8月5日・6日 @MARUZEN(丸善)多摩センター店

昨年好評だった「学生選書ツアー」の第2回を、2015年8月5日(水)・6日(木)の2日間に、多摩センターにある、MARUZEN(丸善)多摩センター店にて開催しました。昨年は1日のみの開催でしたが、今年は、2日間のうちのどちらか、参加を希望した学生の都合の良い日に参加してもらうかたちで開催しました。7月上旬から中旬にかけて図書館のHPやポスターなどで参加の呼びかけ(対象は学群生)をしたところ、ビジネスマネジメント・リベラルアーツの各学群から計11名が参加しました。1日目に6名、2日目に5名が参加し、昨年に引き続き参加した学生は3名いました。



今回は4年生の参加が多く、卒論や卒業研究で取り組んでいる分野の専門書を、自分のためと、同じゼミの学生や後輩などのために入りたいという声が多く聞かれました。少ない人で10冊くらい、多い人で30冊ちょっとを選びました。昨年は、参加者の中で何人かが同じ本を選ぶということが結構ありましたが、今回は、参加者の中での重複はほとんどありませんでした。



店長さんのお話も少し紹介したいと思います。まず、売場面積が1,000坪あるというのは、多摩地区では大型店の1つで、大きな書店が複数ある東京駅周辺・新宿・池袋などの都心まで出て行かなくても、たいいていのが揃う品揃えになっていることと、文房具コーナーも充実していることが特徴、とおっしゃっていました。書店の仕事については、朝が早いことと、雑誌の発売日は特に忙しいこと等を説明してくれました。月刊誌の発売日(多くのファッション誌が発売になる23日・28日、コロコロコミックが発売になる15日など)や、人気のコミックの発売日は、開店前までに最新号に入れ替える作業をしなければならず、結構大変とのことでした。最近の女性向けのファッション誌には付録がついているものが多いですが、付録は最初からはさみこまれているわけではなく、別に届いたものを書店の店員がゴムや紐をかけて雑誌の本体とあわせている、とのことでした。本の並べ方・見せ方の3形態である、「ひら」(平積み:表紙を上にして本を積む方法で、ベストセラーやおすすめの本などによく用いられる)、「めん」(面陳列:本棚で表紙を見せて陳列する方法)、「さし」(背差し・棚差し:本棚で背表紙を見せて陳列する方法)、についての説明もありました。

参加した学生からも活発な質問が出ました。「最近読んだ本は何ですか」「地元の小さな書店でアルバイトをしているが、大きな書店での棚卸はどのくらい時間がかかりますか」などなど、1つ1つ丁寧にこたえていただきました。書店で働く本が読めると思っている人が多いが、本の情報にはふれられても実際には忙しくて読めないことが多く、別の仕事をしていたときの方がむしろ本が読めたと感じている人が多い、とのことでした。また、最近の出版業界の事情にも話はおよびました。毎年約7万~8万点の新刊本が出版されて、書店に並んでいる本はどんどん入れ替わっていくが、定評のある本やロングセラーには、長く読み継がれている意味がある、読む価値がある、とのことでした。一例として、絵本の『ノンタン』のシリーズも実はロングセラーで、1976年に1冊目の初版が刊行されて以降、増刷を重ねているとのことでした。後ほど売場で『ノンタン』の奥付の情報を確認してみると、初版の日付と、現在のものの日付が書いてあり、第263刷というような表記があったことに驚きました。

学生たちの思いが伝わってくる紹介POPとともに展示されています



8月5日の参加者



学生11名が参加しました!

8月6日の参加者

選書ツアーとは、書店の本棚で、実際に本に触れて・見て・読んで、「この本を図書館に入れたい!」と思った本を選んでいくものです(詳しくは、図書館ニュース75号の第1回選書ツアーの記事をご覧ください)。

学生たちの参加のきっかけや動機は、「とにかく本が好きだから」という人から、「昨年参加して良かったからまた参加した」「昨年の参加者からすすめられたから参加した」「大学図書館の本を選ぶということに興味を持ったから」という人まで、様々でした。

こんな本が図書館にあったらいいな



今回は(両日とも)最初に店長の三浦さんから、書店の仕事とMARUZEN多摩センター店の店舗の特徴などについてのお話をうかがってから、選書をしました。選書の方法は、良いと思った本のバーコードを小型の読み取り機で読み込んでいくものでした。MARUZEN多摩センター店は、三越などの店舗が入っているCOCOLIA多摩センターの5階にあります。5階の1フロアですが、売場面積は約1,000坪あり、揃えている本の冊数は約70万冊と、選書するには十分な広さと蔵書がありました。

昨年とほぼ同様に、1人あたり約3万円(目安として1冊1,500円の本ならば20冊、1冊3,000円の本ならば10冊)の予算の範囲内で選びました。

2015
8.5(水)
6(木)

今回の選書ツアーも、参加した学生たちの感想はおおむね好評で、実りの多い選書ツアーになったと思っています。秋学期が始まるころには、今回の選書ツアーで選書した本が、図書館3階の入口の展示コーナーに並ぶようになりそうです。興味・関心を持った方は、ぜひ見て・手に取って・読んでみてください。

(図書館メディアセンター 担当係長 三上 彰)



読書運動プロジェクト

図書館読書運動プロジェクト活動報告



読プロ2015上半期

公開ミーティング 4月～5月

昨年同様、読プロでは4月22日～5月8日に今年度最初の企画である春の公開ミーティングを行いました。全部で5回行った公開ミーティングには、新入生が15名も参加してくれました！今年も公開ミーティングを行ったことで、普段の読プロの活動を一緒に体験しながら、新入生と読プロメンバーがコミュニケーションをとることができ、双方にとってとても良い機会でした。



合同読書会 7月10日

大学図書館に関わる学生団体の桜美林大学「読プロ」×帝京大学「共読サポーター」×百合女子大学「LiLiA」の3団体で合同読書会を開催しました。今回は読プロ主催ということで桜美林大学にて行い、斎藤環著『関係する女 所有する男』（講談社）について、3グループに分かれて熱い討論を交わしました。普段は読プロ内だけで行われている読書会が他大学との交流



の場となり、有意義な時間となりました。

コラボ企画 7月11日

桜美林大学「読プロ」×相模原市立相模大野図書館×神奈川県立相模原中等教育学校が初コラボをしました。その名も「一枚の魔法～見習いたちの初仕事～」。読プロメンバーが中等教育学校の中高生のみなさんに本のPOP作りをレクチャーし、完成したものをPOP大賞として展示・投票を行っています。「魔法が登場する本」をテーマに、「見習い」たちの力作POPが勢ぞろいしました！POPの展示・投票は8月から



相模大野図書館からスタートし、相模原中等教育学校、そして桜美林大学にて順次開催されました。

合宿 8月10～12日

読プロでは、今年も夏休みに多摩アカデミーヒルズで合宿を行いました。また、昨年の合宿は1泊2日でしたが、今年の合宿は2泊3日に増やしました。そのため、より長い時間の中でメンバー同士の親睦を深めることができました。普段のミーティングでは時間が足りず、話し合えない今後の議題をたくさん話し合うこともできました。今年も素敵な思い出になりました！



読プロ新メンバーから一言



リベラルアーツ学群1年 金子 勇輝

LA1年の金子勇輝です。三度のご飯より本が好きで、読プロに入りました。この団体の活動範囲の広さと各人の意志と結束の強さに驚嘆し、先輩たちに追いつくべく気合と若さ(笑)で乗り切った四ヶ月でした。イベント企画を担当させてもらい、さらに気を引き締めていく所存です。読プロの人たちはみんな本好きですが、それぞれの本に対する考え方の違いなどに触れる度、うれしくなります。今までこんなにも本に向き合う人たちを見たことがなかったからです。他にも図書館や生協での棚活動や、作家さんを招いてトークイベントを行うなど外向的な取り組みに関われることは、すごい衝撃です。

 図書館からの報告

2014年度 図書館メディアセンター報告



2014年度の図書館入館者総数は122,113人（2013年度123,465人。カッコ内前年度。以下同じ）で2013年度に比べて-1.1%と減少、貸出人数は28,639人（28,326人）で1.1%の増加、貸出資料数も66,101冊（65,924冊）で0.3%の増加となりました。

表1

| | 学生数(5月1日時点) | | | 入館者数 | | | 貸出人数 | | | 貸出資料数(冊・点) | | |
|---------------|-------------|-------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|------------|--------|--------|
| | 2014 | 2013 | 対前年度 | 2014 | 2013 | 対前年度 | 2014 | 2013 | 対前年度 | 2014 | 2013 | 対前年度 |
| ①芸術文化学群 | 1,013 | 1,024 | -1.1% | 9,624 | 9,699 | -0.8% | 2,405 | 2,401 | 0.2% | 5,050 | 5,630 | -10.3% |
| ②健康福祉学群 | 883 | 902 | -2.1% | 11,659 | 10,972 | 6.3% | 1,279 | 1,267 | 0.9% | 2,835 | 2,477 | 14.5% |
| ③ビジネスマネジメント学群 | 1,945 | 1,971 | -1.3% | 14,427 | 14,127 | 2.1% | 2,729 | 2,480 | 10.0% | 6,352 | 5,339 | 19.0% |
| ④リベラルアーツ学群 | 4,481 | 4,493 | -0.3% | 60,878 | 60,112 | 1.3% | 15,146 | 14,602 | 3.7% | 34,864 | 33,642 | 3.6% |
| ⑤学部 | 2 | 3 | -33.3% | 10 | 4 | 150.0% | 0 | 0 | - | 0 | 0 | - |
| ⑥大学院 | 369 | 377 | -2.1% | 11,498 | 13,110 | -12.3% | 2,274 | 2,815 | -19.2% | 5,509 | 7,500 | -26.5% |
| ⑦学群・大学院計 | 8,693 | 8,770 | -0.9% | 108,096 | 108,024 | 0.1% | 23,833 | 23,565 | 1.1% | 54,610 | 54,588 | 0.0% |
| 教職員 | - | - | - | 5,700 | 5,488 | 3.9% | 3,002 | 2,946 | 1.9% | 7,684 | 7,462 | 3.0% |
| その他(科目等履修生等) | - | - | - | 8,317 | 9,953 | -16.4% | 1,804 | 1,815 | -0.6% | 3,807 | 3,874 | -1.7% |
| 合計 | 8,693 | 8,770 | -0.9% | 122,113 | 123,465 | -1.1% | 28,639 | 28,326 | 1.1% | 66,101 | 65,924 | 0.3% |

これを学生の利用：（表1 ①～⑦）という観点から見ると、学生数は8,693人（8,770人）で-0.9%、入館者数は108,096人（108,024人）で-0.1%、貸出人数は23,833人（23,565人）で1.1%、貸出資料数は54,610冊（点）（54,588冊（点））でほぼ同数、という結果になりました。図書館に来る学生と貸出人数、貸出資料数は前年度に比べて微増、学生1人あたりの貸出冊数は2013年度が6.2冊に対して2014年度が6.3冊でした。2014年度から貸出規定を見直し、学生、教職員の貸出冊数を増やしたため、入館者数は減っても貸出実績は増えました。しかしその割には資料を利用する人数、貸出資料数とも微増にとどまっています。データで見る限り、図書館の資料を多く利用する学生が増えたようです。学群・大学院別で見ると芸術文化学群は減少傾向、健康福祉学群は入館者数と貸出資料数が増加、ビジネスマネジメント学群は入館者数が微増で貸出人数と貸出資料数は大幅増加、リベラルアーツ学群は全体的に微増、大学院は全体的に減少傾向といえるでしょう。

次に学生の図書館資料（図書・雑誌・視聴覚）の利用（表2）についてですが、芸術文化学群の学生で顕著なのが視聴覚資料（DVD等）の利用です。学群ごとの図書、雑誌、視聴覚資料貸出数の内訳を見ると、芸術文化学群の学生は図書71.1%（3,589冊）、雑誌1.3%（65冊）、視聴覚資料27.6%（1,396点）と、他に比べて視聴覚資料利用の割合が大きくなっています。映画、演劇、音楽専修という活字以外の資料も必要とする学群ならではのといえるでしょう。また2014年度は、学生の貸出資料数（図書・雑誌、視聴覚資料）のうち、視聴覚資料を利用した割合が2013年度より高くなりました。それぞれ芸術文化学群27.6%（23.2%）、健康福祉学群4.9%（2.9%）、ビジネスマネジメント学群5.0%（2.5%）、リベラルアーツ学群4.5%（4.4%）、大学院0.8%（0.4%）、全体で6.4%（5.5%）という数値が出ています。これだけ見ていると、全体的に映像・音声資料を利用する学生が少しずつ増えているという印象を受けます。

表2

| 図書貸出冊(点)数 | 学生数 | 図書(冊) | | | 雑誌(冊) | | | 視聴覚(点) | | | 合計(冊・点) | | |
|---------------|-------|----------|-------|--------|-------|----|-----|--------|----|-------|---------|-------|--------|
| | | 2014/5/1 | 町田 | 四谷 | 計 | 町田 | 四谷 | 計 | 町田 | 四谷 | 計 | 町田 | 四谷 |
| ①芸術文化学群 | 1,013 | 3,589 | 0 | 3,589 | 65 | 0 | 65 | 1,396 | 0 | 1,396 | 5,050 | 0 | 5,050 |
| ②健康福祉学群 | 883 | 2,661 | 2 | 2,663 | 32 | 0 | 32 | 140 | 0 | 140 | 2,835 | 2 | 2,835 |
| ③ビジネスマネジメント学群 | 1,945 | 5,919 | 0 | 5,919 | 116 | 0 | 116 | 317 | 0 | 317 | 6,352 | 0 | 6,352 |
| ④リベラルアーツ学群 | 4,481 | 33,035 | 6 | 33,041 | 245 | 0 | 245 | 1,578 | 0 | 1,578 | 34,864 | 6 | 34,864 |
| ⑤学部 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥大学院 | 369 | 3,791 | 1,622 | 5,413 | 50 | 0 | 50 | 41 | 5 | 46 | 3,882 | 1,627 | 5,509 |
| ⑦学群・大学院計 | 8,693 | 48,995 | 1,630 | 50,625 | 508 | 0 | 508 | 3,472 | 5 | 3,477 | 52,975 | 1,635 | 54,610 |

図書館を有効に使ってもらうための利用ガイダンスも行いました。クラスごとのガイダンスは「リベラルアーツセミナー」で66クラス、931名、「社会人の基礎I」で23クラス、378名に対して実施、オリエンテーションでは芸術文化学群、健康福祉学群、大学院、留学生別科などに対して実施しました。また中級以上の情報検索ガイダンスは11クラス、176名に対して実施し、個人申込みの利用ガイダンスも実施しました。

（図書館メディアセンター課長 佐々木 俊介）

四谷キャンパス(千駄ヶ谷)図書室の紹介



四谷キャンパスは2015年9月14日に千駄ヶ谷へ移転し、それに伴って大学院の図書室も新校舎の地下1階にて開室しました。

以前の四谷図書室よりも狭くなりましたが、パソコンの台数や、蔵書数は変わりありません。

現在、図書は約13,000冊、雑誌約100タイトル、紀要約200タイトル、新聞6紙、視聴覚資料約50点を所蔵し、オンラインで電子ジャーナル約20,000種、電子書籍約500タイトル、データベース約30種等を提供しています。そのうち、特に電子書籍は近年学修や研究に必要なものとなっていますので、今後増やしていく予定です。

開室時間もこれまでと同様、平日は10:45~21:45、土曜日は10:45~21:15、授業期間の日曜日は10:45~18:00です。

図書館サービスについても貸出(大学院生は2015年度からは30冊に増加)だけでなく、ILL、現物貸借、紹介状発行等これまでと同様に利用することができます。

そのほか図書館ガイダンス、データベース講習会等も随時開催していきたいと考えています。

千駄ヶ谷の新しい図書室で皆さんの学修・研究の手助けができるように努めていきます。

(図書館メディアセンター 矢部 知美)



入退館ゲート



四谷キャンパス(千駄ヶ谷)図書室内

◇ 秋学期の図書館ガイダンスについてお知らせします ◇

■文献探索セミナー

10月も春学期同様、個人向けに、図書館案内、本の調べ方、新聞記事・雑誌論文の探し方を紹介するセミナーを開催しています。興味のある方は、レファレンスカウンターへお尋ねください。詳しい内容については図書館ホームページをご覧ください。

■情報検索ガイダンス

ゼミ生対象に年間を通して「情報検索ガイダンス」を実施しています。授業や専攻に合わせて、文献や情報の探し方や、人文系、心理学系等の専攻に合ったデータベースの使い方を説明しています。希望する学生はレファレンスカウンターにお申込ください。

■卒論・卒研作成支援

レファレンスカウンターでは、個人別に、卒業研究・卒業論文作成のための文献や情報の検索方法を紹介する「卒論・卒研作成支援」を随時行っています。レファレンスカウンターにお申込ください。

問い合わせ先：三到図書館 (メール：t-eturan@obirin.ac.jp 電話：042-797-1426)

● 編集後記 ●

「子の曰く、学んで思わざれば則ち罔し、思うて学ばざれば則ち殆し」(原文：子曰、学而不思則罔、思而不学則殆。訳：学んでも考えなければ、[ものごとは]はっきりしない。考えても学ばなければ、[独断におちいつて]危険である)(金谷治訳注『論語』岩波書店) / 2014年の全国大学生協連合会「学生生活実態調査」で、1日の読書時間ゼロの大学生が4割を超えたという調査結果が巷間を賑わした。私がある大学関係者の集まりで読書の分科会に参加した時も、学生に本を読ませるために大学教職員には何が出来るのか、という話題になり、ある教員が「私たちは読書に価値を見出さない学生に『本を読まない何が困るのか』ということの説明できるか」という趣旨の発言をされた。 / 本を読まなくても「学び」は可能であろうが、そこに「思考」がなければ学びは深まらない。逆もまた真なり。学びや考えを深めるためには「知識」の多寡が問われる。知識を増やす手段は畢竟、本を読むことであろう。新聞でも雑誌記事でもよい。学生時代に己を深めるために図書館は格好の場だと思っただが、さて学生たちはそう思ってくれているだろうか (S)